

# 学びの風便り

リーディングスクール通信28 R6.9.20

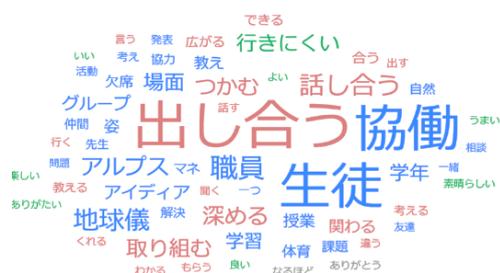
発行：松本市教育委員会 教育研修センター

## 特集！学びの改革のあゆみ 菅野中学校・梓川中学校

### 菅野中学校 「協働の学び」をみんなで創る

先生たち、生徒たちがテーマを共有する

リーディングスクール・アソシエイト校の菅野中学校では今年度、「協働し主体的に学び続ける生徒の育成」をテーマに、「対話」を大切にした生徒主体の学びづくりに挑戦しています。



実践は、「対話」を通してテーマを共有することからスタートしました。まずは先生たちが4月の職員研修で、「協働することのよさや価値」を先生方みんなで考え、語り合う機会を持ちました。大変盛り上がった話し合いは「協働」を先生方が具体的に考えるきっかけとなりました。

さらにテーマ「協働」のイメージを全校の生徒たちと共有する機会づくりにも挑戦しました。全校生徒

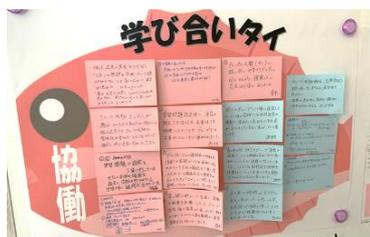
が学年・学級を超えた小グループをその場でつくり、「菅野地区のよさって何だろう？」という問いについて考えを交流しあいました。

「自分が思いつかないような考えや、視点などがあるから新しい意見が出やすいと感じた。」「考えを深めることができるのはすごく良いと思いました」など、「協働（対話）」のよさを、その場で共有することができました。



#### 「協働」的に学ぶ授業づくりを重ねる

テーマを共有した先生方は、各教科で「協働」の学びを目指した授業づくりに挑戦しました。考えを交流しながら効果的な漢字の調べ方を学ぶ（国語）、グループで話し合いながら何気ない「言葉」に含まれる差別意識に気づく（道徳）、楽曲への思いを交流しながら発表曲を決めだす（音楽）、「旅行にもっていくものは」という問いへの考えを交流しながら「熱帯」の気候の特色への実感を深める（社会）、といった授業が実践され、そのたびに「対話」のよさを味わいながら主体性を高めていく生徒の姿がありました。



さらに、研究主任の飯森先生は、先生方の実践のよさを共有したいと考え、「学び合いタイム」コーナーを設置。授業参観された先生方が授業から学んだフィードバックを



交流する場を実現しました。

#### 実践を振り返り、問いを深める

1学期の終盤、先生方は自身の実践を振り返る機会を持ちました。協働的な学びを目指した授業づくりにより、生徒たちの「考える力」が育ったり、「表現」する機会が増えたり等の成果が見られた一方、「生徒が本当に追究したくなる『問い』の設定」「生徒が学びを振り返る時間の確保」といった課題が明らかにされました。さらに、職員研修では「2学期に『協働的な学び』を実現したい場面」を具体的に構想・交流し合い、一人一人の先生方が「次の一歩」を明確にしました。

#### 学び続け、歩み続ける

菅野中学校では、生徒の主体的な学びの具現を目指し、今年度「探究的な学び」にもチャレンジしています。新たな授業像を目指した挑戦は、時に迷いや困難さを伴うこともありますが、このように、先生たち自身がそれらを分かち合い、協働的に学び合うよさを味わいながら、みんなで実践を一歩ずつ進めています。

## 梓川中学校 「地域とともに歩む」姿を目指して！

今年からアソシエイト校として、グランドデザインに「地域とともに歩む」ことを掲げ歩み出した梓川中学校。梓川地区地域づくりセンターや公民館の方々の力をお借りしながら、2・3年生が中心となり地域連携の活動を進めています。

### お互いの授業に対する思いを語り、学び合う

6月の職員研修では、教頭先生が最初に「否定しない、顔を見て話す、うなずきながら聞く」をルールにアイスブレイクを行いました。あらかじめ研究主任が用意した用紙「子どもの必要感に迫る学習問題・学習課題の工夫について」を各自が記入し持ち寄り、グループになり「授業に対する思いや工夫」を語り、互いに学び合う機会を取りました。アイスブレイク後だったこともあり、和やかな温かい雰囲気で行われました。その後、2・3年生の地域連携の案について、「生徒が自己有用感を感じるためにどんな工夫ができるか」それぞれのアイデアを付箋に書いて出しました。先生方が「地域連携」に対して「こんなことができそうだ」と自分事として捉え、話し合う姿が印象的でした。



また、8月には「友と関わる場面をどう工夫しているか」について、研究主任が用意した用紙に各自が記入し、それをもとに語り合いました。「間違ってもよいという雰囲気をつくり出すのは本当に難しい」「毎時間4人グループを取り入れるようにしたら、友と聞き合う姿が増えてきた」など悩みやアイデアが出され、日々の授業をよりよくしたいという先生方の思いが伝わってきました。

### 地域連携に向けてⅠ ～地域の方の思いを知る～

5月末には、研究主任のI先生(2学年)と研究副主任K先生(3学年)が梓川地区地域づくりセンターへ行き、センター長さんや公民館の方々から地域の抱えている課題や思いを聞きました。

- ・卒業した3年生が地域の高齢者のお宅に行き、お話や困りごとを聞きにいった活動は好評だったので続けてほしい。困りごとの解決策を若い発想で考えてもらいたい。
- ・梓川水系をきれいに守ってほしい。地域の魅力を感じ発信し、いい所だと自信をもってほしい。等々

地域の声を聞き、改めて地域連携の活動を進めていく大切さを感じる機会となりました。この後、「梓川地区の活動を通して、自分は何を学びたいか」アンケートを取りました。



7月中旬、3年生は学年集会を開き、アンケート結果の発表後、地域の公民館活動をされている方から「地域の方の思い」を聞く機会を取りました。「梓川地区では、現在高齢者の方が増えている。ぜひ皆さんの力を貸してほしい」という地域の方の熱い思いを聞き、2学期から昨年3年生が行い好評だった「高齢者宅を訪問し、地域のことを学んだり困りごとを聞いたりする活動」を引き継ぎ実施することにしました。

### 地域連携に向けてⅡ ～地域の高齢者宅へ訪問～

3年生は、9月5日、12日に総合的な学習の時間を利用して、高齢者宅を4～6人のグループに分かれ訪問しました。訪問するお宅は、地域づくりセンターや公民館の方々のご協力により決め出し「高齢者の方が手伝ってほしいこと・困っていること等」のアンケートも実施していただきました。



【高齢者の方が手伝ってほしいこと】

若い人とおしゃべり、ゴミ出し、草取り、雪かき、力仕事、農作業 等

【困っていること等】

病気になったら大変、目が悪くて運転できない、一人だから将来が不安、若い人たちといると楽しい 等

【3年生が聴きたいこと】梓川の歴史・梓川のりんご



グループ編成は、上記3つの希望と家が近所かななどを考慮し決定しました。訪問したお宅は、中学生を大変温かく受け入れてくださり、明るい笑い声と笑顔が絶えない楽しいおしゃべりの時間となりました。一人暮らしのためなかなかできない農作業や庭の剪定のお手伝いをする姿があったり、「あと9分しか居られないよ」などと別れを惜しむ声が聴かれたりする心温まる訪問となりました。

「木を切ることに夢中になり過ぎていつの間にかあと5分になっていました。人のために役立つのが楽しかったし、将来のためにもなりました…(生徒の感想より)。「地域とともに」歩み始めた梓川中の今後の取組が楽しみです。